

大阪の 社会福祉

2023年5月

816



社会福祉
法 人

大阪市社会福祉協議会

<http://www.osaka-sishakyo.jp>



▲参加者もスタッフも一緒になって和気あいあい

たくさん仲間と
フードコートで
おたのしみ会

3月23日、もりのみやキューズモールBASEのフードコートで「Q's kitchen おたのしみ会」が開かれました。近隣の小学校で広く周知し、当日は、事前に応募した親子など5組15人と運営スタッフ、ボラン

ティアなどが参加し、にぎわいました。受付で参加費（18歳以上500円、こども無料）を支払い、ギフトカード（1000円分）をもらってフードコート内の好きなメニューを選んで食事をするともに、こどもたちは工作やお絵描き、バルーンアートなどで楽しい時間を過ごしました。

（2面につづく）

中央区

こどもも大人もつながる
地域に根差したイベント
「Q's kitchen
おたのしみ会」



HB

ヤングケアラーという言葉が最近あらこちらで取り上げられるようになった▼先日出会った当事者は、幼児期から39歳までほとんど一人で、家事はもちろん祖母と母の介護にあたったとか▼外出できない母に代わって病院に行っても、本人でないから薬を渡せないとか、祖母のために来てくれるヘルパーは、家族のためには食事も洗濯もしてくれなかったとか。そんな制度の矛盾も誰に訴えることもなく、一人で耐えてきたのだ▼

不安を感じるお母さんがそばにいてくれることを望んだので、社会で生きていくために必要な体験をほとんどしていない。39歳での母の死で、介護からは解放されたけれど、訪問看護師もヘルパーも来なくなっ、ほぼ引きこもり状態であつたとか▼友達もいない。旅行をしたり、仲間と飲みに行ったり、これまでない体験と一緒にするだけでも、彼の新しい暮らしの役に立つのではないかと思った。それくらいなら誰にでもできる。ボランティアって特別の事でなく、日常生活の延長線上にあるはずだ▼ヤングケアラーのために、そんな活動をコーディネートしてくれる組織ってないのだろうか。

（石）

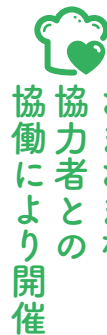


こどもも大人もつながる
地域に根差したイベント

「Q's kitchen おたのしみ会」



さまざま
協力者との
協働により開催



「Q's kitchen お

たのしみ会」はNPO法人フ
口理事の中嶋千賀さんなかじま ちかが発起人
となり、中央区社協や多くの民
間団体・個人が協力して、準備
を進めてきたものです。

中嶋さんは「学校へ行かない
こどもたちのフリースクールな

どを20年近く運営しているなか
で、登校・不登校にかかわらず
もっと地域に根差した形で、居
場所づくりができないかと模索
していました。そこで、もとも
と参加していた『もりのみやつ
て』という会で提議し、協力者
を募りながらひとまずプレ開催
を試してみようと思い、今回の開
催に結びつきました」と話しま
す。

こどものため
だけでなく
居場所づくり



▲紙コップに糸を巻く工作に夢中

「もりのみやつて」と
は、大阪城や森ノ宮近
辺のさまざまな人や団
体が、面白いこと、やり
たいことをやってまちお
こしにつなげようと、会
議やイベントを開いた
りしている集まりです。
今回の会場やギフト
カードを提供した、あべ
のキューズモール（東急
不動産SCマネジメント
株式会社）リーダー
の富永剛さんとみながつむが主宰し
ています。

「参加者それぞれが抱えてい
る課題を話し合ったり、それぞ
れができることを持ち寄ったり
して活動を広げています。例え
ば、今日ボランティアとして参
加してくれているファースト・
スタディ日本語学校は、留学生
である生徒たちに地域住民とつ
ながってほしいという思いがあ
り、えいごコーナーも設けて、
参加者とコミュニケーションを
はかってくれました」と富永さ
ん。

こどものためだけでなく、参
加する人が「みんなであつな
がっていきけるように」と思いを込め
て「こども食堂」という名称は
あえて用いずに「おたのしみ会」
としました。

おしゃべり感覚の
大人のための
相談会



▲中嶋さん（左）と富永さん、チラシをもってにっこり！



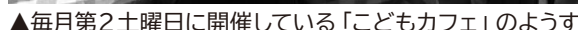
▲キャラクターや犬など、大人気のパルーンアート（協力：パルーンアート
同友会）

もらえたらと思っています。身
近な相談窓口として、サポート
していきます」と説明。今回は、
参加者と話をするなかで、参加
したきっかけや日頃どのような
サポートがあつたらいいと感じ
ているかなどを聞き取りまし
た。

1回目の開催を経て検討し
なければならぬことも見えて
きました。今回は、すぐに定員
に達しお断りの方がたくさん
いたため、申込みの受付方法や
定員、開催方法など、次回に向
けて、多くの協働者で検討して
いきます。

子育て中のお母さんが
つながる機会を

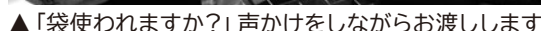
ント』が開催されました。このイベントは旭区社協、旭区こども・子育てプラザ、特定非営利活動法人町家クラブゆるりとの共催により、子育て中のお母さん同士がつながりをつくり、ホッとできる場とすることを目



よさこい、キッズダンス披露
やこどもが遊べるコーナーや、
こども病院の医師、保育士によ
る相談コーナーが設けられ、乳
幼児から小学生までの親子が参
加し、交流しました。

小学生が
ボランティア活動に
関わる入口

会場の一隅でおこなわれていたのは、こどもが接客をする「こどもカフェ」です。参加者から料金を受け取った後、その場で



淹れたてのコーヒー、紅茶またはジュースとお菓子を手渡ししました。隣に設けられた飲食スペースでは参加者がホッと一息つきながら、おしゃべりに花を咲かせました。

スタッフとしての
功績を称えて

今回のイベントの冒頭には、令和2年2月設立当初から「こどもカフェ」で活動してきた小

中学生5人を表彰しました。特

ゆるり理事長の長井敏昭さんから一人ずつ表彰状が手渡され、会場全体が拍手に包まれました。その翌月の4月8日に開催された「こどもカフェ」でも、1年間スタッフとして活動した小学生5人が表彰されました。

「このものに時にボランティア活動をして、そのことを評価されるという経験が今後の人生において意味があると考えていま

けるように、こどもスタッフ研修用の資料も作成しています。家から出づらいうちや地域内で見守り活動をしている方など、お年寄りから小さなこどもたちまでいろんな方が集まれる機会にしていきたいと思っています」と同法人の柴野奈津子さんは話

します。

「こどもたちがお客さんの気持ちになって活動できていると開催を重ねるごとに実感しています。毎回こどもカフェの後に実施するふりかえりでは、『ここうした方が良くなるんじゃないか』と、こどもたちから意見が出ます。できる限りその意見を反映させ、こどもたちの自信につなげていきたいと思っています」と区社協・地域支援担当の武内葉さん。

「また、こどもカフェでの活動が、参加する地域住民の方々とコミュニケーションを図る機会になったかと考えています。急に小学生が大人と話すことはなかなか難しいかもしれませんが、コミュニケーションの取り方研修の開催も企画していきたいと考えています」と話しました。

「コロナ禍における地域福祉活動状況調査報告書」を発行

市社協は、令和5年3月に「コロナ禍における地域福祉活動状況調査報告書」を発行しました。報告書では、約1年半にわたる調査から見えてきた活動の推移と、さまざまな創意工夫による取り組み事例を掲載しています。地域福祉活動の「これまで」と「今」を確認しながら、「これから」を考えていくために、ぜひご覧ください。

市内1965か所の活動推移を分析

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症によって、私たちの生活は一変しました。地域福祉活動も大きな影響を受け、感染対策を講じての活動継続、リスクを考慮した中止・休止など、答えのない判断を迫られる状況が続きました。そうしたなかで、

1 約1年半の間で活動状況はどう変わった？

終結を迎えた活動もある一方で、コロナ禍で立ち上がった新たな活動もあります。市社協では、令和3年10月から令和5年2月まで、隔月で全9回、各区社協の協力を得て市内の地域福祉活動の状況調

6つの活動区分ごとに、調査開始時（令和3年10月）と最終時点（令和5年2月）を比較しました。約1年半で状況変化の波はあったものの、総じて「通常通り活動」「一部変更して活動」が増加し、「中止・休止」は減少傾向にあります。特にふれあい喫茶、子育てサ

査を実施し、本誌でもお伝えしてきました。対象活動の合計数は1965か所となります。本記事では、報告書に基づき、3つの視点から調査を通じて見えてきたポイントを紹介します。

2 ずっと中止・休止状態が続いている活動は？

ロンでは、「中止・休止」が半数以上だった状態から、多くの地域が活動再開へと逆転しています。

約1年半の調査期間を通じ

で、すべて「中止・休止」を選択していた活動を抽出しました。該当する活動がもつとも多い区分は、「ふれあい喫茶」で79か所（同活動全体のうち22.7%）、「子育てサロン」は61か所（同活動全体のうち21.0%）となっています。中止・休止が続く活動のなかには、実質的に終結・廃止に近

調査概要

対象となる活動

大阪市内で各区社協が支援あるいは把握している次の活動（計1965か所）

- 高齢者食事サービス（347か所）
- ふれあい喫茶（348か所）
- 子育てサロン（290か所）
- こどもの居場所活動（287か所）
- いきいき百歳体操（447か所）
- 社協が関わるその他の居場所活動（246か所）

・実施主体は問わない
・おおむね2か月に1回以上の活動を調査対象とする
・地域単位ではなく活動ごとに計上

※対象活動数は、調査期間全体を通しての実活動数（期間中の立上げ・終結なども含む）

調査方法

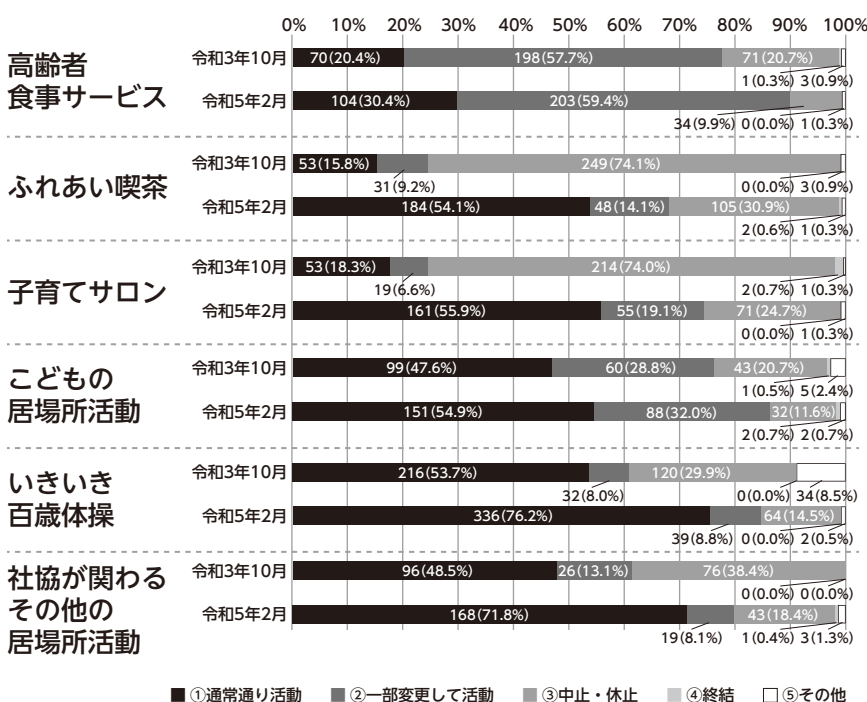
偶数月末を基準時点として、対象となる活動ごとに、各区社協が把握している活動状況（①～⑤の選択肢と自由記述）を所定のシートに記入し、市社協が集約

①通常通り活動 ②一部変更して活動 ③中止・休止
④終結（当該月のみ計上し、以降は調査対象外とする） ⑤その他

※報告書作成にあたり、集計の考え方を整理したため、これまで公表している数値と一部異なる

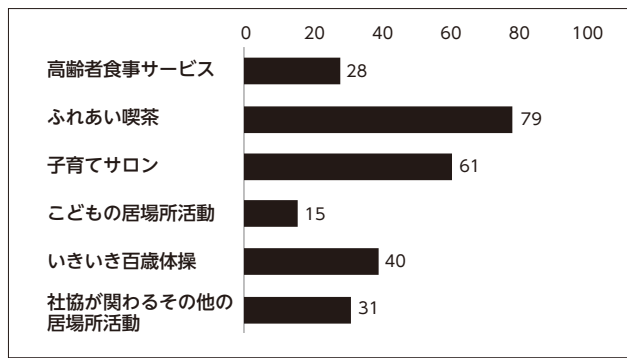


<https://www.osaka-sishakyo.jp/2023-3/>



▲図：調査開始時と最終時点の活動状況の比較

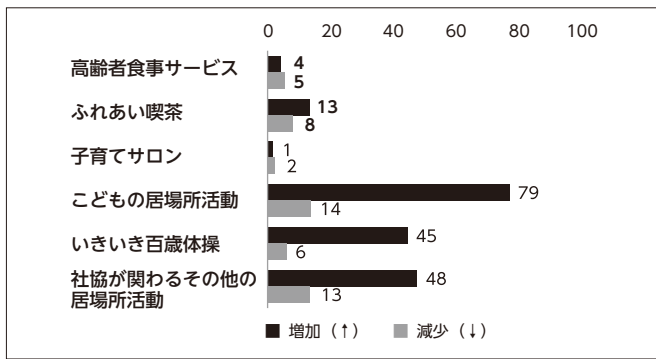
い状態となり、再開の見通しが立たないものが含まれていることも推測されます。その一方で、コロナ禍の約3年間の中止・休止を経て、具体的に再開を計画し、これから動き出そうとしている活動もあります。



▲図：全9回の調査ですべて「中止・休止」を選択していた活動の数

3 新たに立上げ、把握した活動、終結・調査対象外となった活動は？

調査実施期間中の対象活動のそのものの増加（新規立上げ・新規把握など）、減少（終結・調査対象外への移行など）について、活動区分ごとにまとめて



▲図：調査実施期間における対象活動の増加数・減少数

います。

高齢者食事サービス、ふれあい喫茶、子育てサロンは、総数として大きな変化は見られませんでした。地域住民が主体となり、長年積み重ねられてきた活動のうち、一部が終結を迎えたことは事実として受け止めなければなりません。

一方で、こどもの居場所、いきいき百歳体操、社協が関わるその他の居場所活動は、約1年半の間に170か所以上の活動が新たに創出・把握されています。

全体では増加が190か所、減少が48か所と、増加数は減少数の約4倍となっています。

「話し合いの場」を

新型コロナウイルス感染症は2類相当から5類へ移行することとなり、今、社会全体がコロナ禍の転換期を迎えています。調査結果や掲載事例からは、多くの既存の活動が、感染拡大の波のなかでもつながり続けることを諦めず、活動の再開や柔軟な形での実施に継続して取り組んできたことを読み取ることができます。また、コロナ禍にあっても、こどもの居場所や介護予防に関する場を中心に、多数の新たな活動が創出されています。

本報告書を活用しながら、各区・地域で、活動現場で感じている変化や思い、再開・継続のための工夫などを情報共有し、話し合う場をぜひつくってみてください。

報告書は市・区社協を通じて配付するとともに、市社協ホームページからも閲覧・ダウンロードすることができます。



淀川区 区内全域



「認知症カフェオレンジ」の利用対象を拡大し、誰でも参加できる「ゆつくりカフェ」にリニューアル。毎週木曜日に開催し、ゆつくりカフェに参加した後にタオル体操もしている

此花区 島屋地域



以前は、飲み物と食べ物に参加者が選んで注文していたが、感染症対策として、セットにして提供し、参加者が自分で席まで運ぶようにしている

西成区 南津守地域



活動を再開している他地域の見学をきっかけに、4月の喫茶再開に向けて3月にボランティアで予行演習を実施した

東成区 大成地域



「大成駄菓子屋」を毎月1回開催。こどもだけでなく、保護者や地域の高齢者も参加し、世代間交流の機会となっている

「見守り相談室」とは？

活動報告にまとめました



地域とともに
見守るしくみを
つくりまします！

東淀川区の「見守り相談室」では、地域で見守り活動を進めている住民や専門機関に対して「見守り相談室」の役割を広めるための活動報告書を作成しました。

者が行方不明になった際に、警察と連携しながら、協力者（民生委員、交通機関、コンビニ、郵便局など）にメールを配信し、早期発見・早期保護につなげています。

どの機能も住民や専門機関との連携が重要ですが、さまざまな機能があるからこそ役割の伝え方に難しさもあります。そこで、東淀川区では、作成した活動報告書に見守り相談室の機能の具体的な説明や、対応事例を掲載し、住民や専門機関への役割を伝える際に活用しています。

役割を
分かりやすく
伝えるために

市内24区に設置されている「見守り相談室」では、見守り支援ネットワークが、住民同士のつながりをつくり、地域における日頃の見守り活動を促進しています。主に3つの機能をもっており、「機能①地域の見守り活動への支援」として、見守りに同意された要援護者の名簿を作成し、地域に名簿を提供することで、平常時の見守り活動につなげています。次に「機能②孤立世帯等への専門的支援」として、制度の狭間の困りごとを抱えた方や必要な支援につながない方の相談に対応し、住民や専門機関と連携して支援しています。「機能③認知症高齢者等の行方不明時の早期発見」として、認知症高齢

作成に至ったのは、住民や専門機関からの「見守り相談室が何をしているのか分かりにくい」と言われたことがきっかけでした。具体的にどのようなことをしているのか周知していくことが大切だと考え、令和2年度から各機能の説明と個別支援事例を掲載した「見守り相談室だより」を発行していまし

た。令和3年度には、より地域に合わせた内容を掲載できればどうかと考え、実際にその地域で、困りごとを抱えた方を近隣住民や専門機関と連携しながら支援した事例を掲載した「地域版見守り相談室だより」を作成し、民生委員・児童委員などに配付しました。

地域ごとに作成したことで「見守り相談室にどのような相談をしたらいいのかよく分かった」「他地域での相談対応事例も読んでみたい」という声を受けて、区内全17地域分の「地域版見守り相談室だより」を冊子にまとめた「東淀川区見守り相談室活動報告」を作成することになりました。見やすさを重視し、事例はイラストで表現し、民生委員や地域社協会会長にも意見を聞きながら進めました。

相談の
きっかけづくり

地域役員、専門職などを中心に配付したことで「地域での見守り活動」について知ってもらう機会となりました。また町会長



▲東井高野第10振興町会で『みんなで考えよう「気づきのポイント」どこを見る』をテーマに研修会



▲豊里南地域で「見守り活動者研修会」を開催

事例1 70代男性・ひとり暮らし

ライフライン事業所(水道局)からの通報で孤立死を防いだ事例

きっかけ
水道局より区役所へ「心配な方がいる」と通報が入り、区役所から見守り相談室へ支援依頼が...

状況把握
訪問してみると...玄関の鍵は開まっており、インターフォンも壊れている。
何度も呼びかけていると...隣に住んでいる方が声をかけてきてくれ、「玄関から呼んでもあかんよ。2階にいてるから」と様子を上がり、2階の窓ガラスを叩いて呼びかけてくれ、本人に会うことができた...

対応・支援
翌日、再度訪問。
玄関を開けて待っていてくれた。しかし「死ぬつもりだから」などと支援を拒否。
何度も訪問するうちに...「今日は料理をした」などの発言が出るようになり、生活保護申請や通院などを前向きに考えるようになった。

その後...
地域包括支援センターが通院と生活保護申請の支援を行い、現在は安定した生活を送っている。

孤立死

様子を見に行っても見つからないです...
わかりました！何ってあります！
料理を食べてもいないです...
心配で心配で...助けてあげて！
明日も来るから玄関の鍵、開けといてね！
食事？いらん...
死ねつもりからほっといてくれ...
そんな言わないで...
生活保護などを利用して少しずつ立て直しましょうよ...
少し食欲出てきたんですね。よかったー！
元気そうやね...
これから病院ですわ

が民生委員へ、民生委員から見守り相談室へ、と気軽に相談が入る流れができています。

今回作成した区社協・見守り相談室管理者の矢野麻衣子さんから「ちよっと気になるんやけど『何とかしてあげたいんやけど』というお声からはじまる個

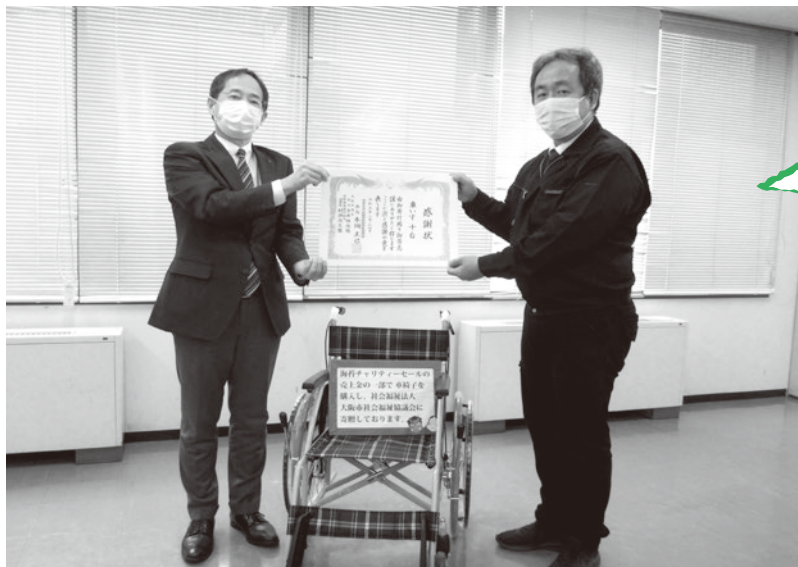
別支援を、地域と協力しながら対応すること、そのなかで見えてきた課題を話し合う場として研修会を開催することなどを継続し、必要な支援につながない方を発見できるネットワークを引きつづき構築していきたいです」と話しました。

善意銀行

—皆さまの善意を大切に—

市社協では、「善意銀行」を通じて皆さまからの善意のご寄附を施設や団体へ払い出すほか、助成金として活用させていただくことで、地域福祉の推進などに役立てています。

令和5年2月14日に大阪海苔協同組合様から、「少しでも車椅子が必要な方の力になれば」との思いで10台をご寄贈いただきました。大阪市障害児・者施設連絡協議会を通じて、市内の社会福祉施設において、有効に活用させていただいています。



令和5年3月1日に本願寺津村別院（北御堂）様から、「北御堂花まつりコンサート」に招待していただきました。大阪市障害児・者施設連絡協議会や地域こども支援ネットワークを通して参加者を募り、参加させていただきました。



風をよむ

『小さなて育ててく』 みんなではぐくみ

大阪公立大学大学院生活科学研究科 中島尚美

今回のタイトルは、令和5年度に厚生労働省が発表した「児童福祉週間」の標語、15歳の作品である。

毎年5月5日の「子どもの日」から1週間を「児童福祉週間」とされるが、今年は4月1日に「こども家庭庁」が発足したこともあって、子ども自らの発信に耳を傾けていくこうとする機運が高まっている。

子ども政策の司令塔となるこども家庭庁のスローガンは「こどももまんなか社会の実現」であり、そのために「こどもの視点に立って意見を聴き、こどもにとっていちばんの利益を考え、こどもと家庭の、福祉や健康の向上を支援し、こどもの権利を守るためのこども政策に強力なリーダーシップをもって取り組む」とある。また「こども基本法」では、「こども」を「心身の発達過程にある者」と定め、年齢による枠組みではなく、成長のプロセスを捉え、そこから生まれるニーズに着眼していく姿勢が読み取れる。

「見守るよ あなたの成長いつまでも 15歳入選作」

その一方で、「少子化対策」「ラストチャンス」「財源確保」といった言葉が飛び交う。また、非婚化や晩婚化が少子化の最大の要因であり、経済基盤の弱さが子どもを望まない選択を強いるともいわれている。それは、

私たちが1・57ショック以降問題の本質を捉えきれなかったからではないだろうか。さらに結婚前提の家族観や子育てか仕事かの二者択一、育児休業が無償なのは当然としてきた社会通念やその枠組みからくる弊害と向き合うべきであった。

今、子どもが幸せを感じることができ環境を創り出す必要がある。ユニセフの子どもの精神的幸福度が低く、子ども・若者の自死が深刻な状況にある日本において、だれの言葉に耳を傾けるべきか、大人の向き合う覚悟にかかっている。

「楽しいね」遊べる幸せ
生きてる幸せ 14歳入選作

※1・57ショックとは、1990年に前年（1989（平成元）年）の合計特殊出生率が1・57と、「ひのえうま」という特殊要因により過去最低であった1966（昭和41）年の合計特殊出生率1・58を下回ったことから大きな話題になった。

取り組みのぞき見

社会福祉施設の地域における公益的な取り組みをご紹介します ①

いつでも だれでも おいで！ 「ただいま」があふれるこどもたちの居場所

社会福祉法人柿の木福祉の園（長居保育園）では令和4年からこどもたちの地域の居場所「四つ葉」を立ち上げました。

こども食堂やさまざまな職業の方からお話を聞く学びの会や課外活動などイベントを月2、3回おこなっています。コロナ禍での休校後も学校に行けなくなったこどもの存在を知り、日中に受け入れたことから始まった活動。NPO法人大阪市地域福祉施設協議会（大地協）の活動からも刺激を受け、卒園生のみではなく、地域や年齢なども幅広く受け入れています。

今後は小学校・中学校との連携を深めながら、保護者のつながりづくりなども広げていきたいと考えています。



▲大地協主催のプチ運動会に参加
童心にかえって全力で遊べる場所



▲「四つ葉」の活動の1つであるこども食堂には30～40人参加しています

キーワード

- ✓ 場所さえあれば こどもたちは力を発揮できる
- ✓ なにかあっても ここにあればどうにかなる
- ✓ 何もしなくてもいい、自分らしく過ごせる場所

社会福祉法人 柿の木福祉の園

大阪市住吉区長居東4-11-16 TEL 06-6691-3669

5/12 金 支えあう 住みよい社会 地域から 民生委員・児童委員の日

民生委員・児童委員は、身近な相談相手として、地域の方々の生活に寄り添い、笑顔、安全安心のために、それぞれの地域において関係機関とも連携し、見守り活動など、さまざまな取り組みをおこなっています。

全国民生委員児童委員連合会は、5月12日から18日を「民生委員・児童委員の日活動強化週間」とし、全国23万人の民生委員・児童委員が一齐にさまざまなPR活動などを展開することにより、地域住民や関係団体などに、その活動や存在について、一層の理解促進を図り、委員活動の充実につなげていくことをめざしています。

市内各区民生委員児童委員協議会においても、のぼり旗や懸垂幕の掲出、PRグッズの配布、ポスター掲示等の啓発活動をおこなっています。



▲令和4年度活動強化週間の取り組み紹介
区役所でPRパネルを展示

民生委員・児童委員の日について

全国民生委員児童委員協議会（当時）は、昭和52年に、毎年5月12日を「民生委員・児童委員の日」とすることを決めました。これは、大正6年5月12日に岡山県済世顧問制度設置規定が公布されたことに由来するものです。

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心

GK

クルマの保険 家財の保険 火災の保険

www.ms-ins.com